

平成 18 年度試験研究成果書

区分	指導	題名	アカスジカスミカメの発生を抑制する水田畦畔雑草管理		
[要約] アカスジカスミカメの水田畦畔密度を低く維持するためには、6月-7月にイネ科雑草、特にイタリアンライグラス、スズメノカタビラを出穂させない畦畔雑草管理が重要である。					
キーワード	水稲	アカスジカスミカメ	畦畔管理	病害虫部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

本県ではアカスジカスミカメによる斑点米被害が多発しており、適切な防除対策が求められている。そこで、重要な増殖場所である水田畦畔でのアカスジカスミカメ密度を水稲出穂10-15日前まで低く維持するため、畦畔のイネ科雑草出穂程度とアカスジカスミカメ密度との関係について検討した。

2 成果の内容

(1) 6月-7月にイネ科雑草がほとんど出穂しない畦畔では、アカスジカスミカメ成虫及びカスミカメムシ類幼虫の密度はきわめて低く、出穂が多い畦畔では密度は高い。このため、イネ科雑草を出穂させない畦畔雑草管理が重要である(図1、図2、図3)。

(2) アカスジカスミカメ成虫が多く認められる水田畦畔の主要草種は、6月はイタリアンライグラスとスズメノカタビラ、7月はイタリアンライグラスである(図4)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 6月-7月のアカスジカスミカメの発生消長を考慮した畦畔雑草管理方法については検討中である。

(2) 水稲出穂期以降の効率的な畦畔雑草管理方法については検討中である

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

アカスジカスミカメを優占種とする水田

(2) 期待する活用効果

効果的な畦畔雑草管理を実施することで、斑点米カスミカメ類の密度抑制が期待できる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H16-18)安心安全な水稲栽培技術の総合実証(3)発生予察に基づく水稲害虫の効率的防除体系の広域的実証(H16~H18 県単)

6 参考資料・文献

(1) 発生環境(水田雑草、割れ籾の多少)に応じた斑点米防止対策(追補) 発生生態からみたアカスジカスミカメの重点防除時期 平成17年度研究成果

7 試験成績の概要

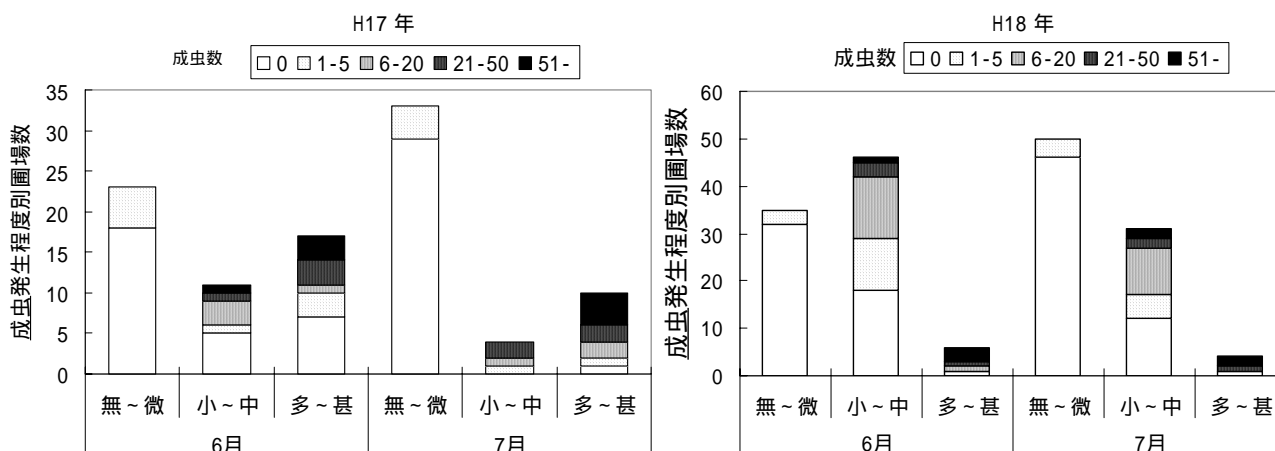


図1. イネ科雑草出穂程度とアカスジカスミカメ成虫数との関係(H17、18年)

イネ科雑草出穂程度: 無:なし, 微:0-5%, 少:6-10%, 中:11-40%, 多:41-70%, 甚:71%-

アカスジカスミカメ成虫数は往復20回振りすくい取り調査による
調査地:奥州市江刺区稲瀬。17-21圃場について、月3-4回調査

イネ科雑草出穂程度が低いと、成虫はほとんど発生しないが、出穂程度が高いと成虫密度も高い

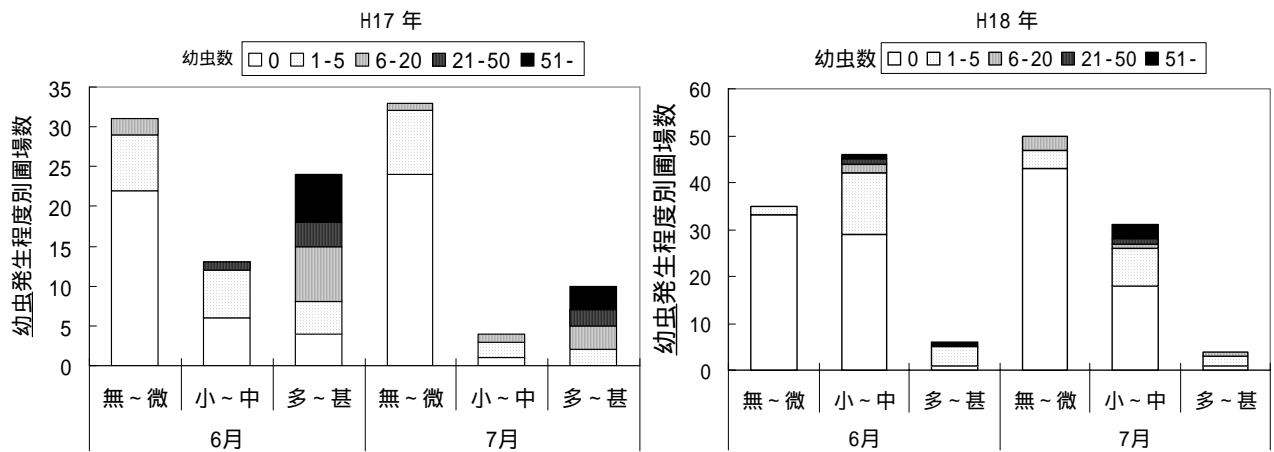


図2. イネ科雑草出穂程度とカスミカメムシ類幼虫数との関係(H17、18年)

イネ科雑草出穂程度：無：なし，微：0-5%，少：6-10%，中：11-40%，多：41-70%，甚：71%-

カスミカメムシ類幼虫数は往復20回振りすくい取り調査による

調査地：奥州市江刺区稲瀬。17-21圃場について、月3-4回調査

図1の成虫と同様、イネ科雑草の出穂程度が高いと幼虫密度も高くなる

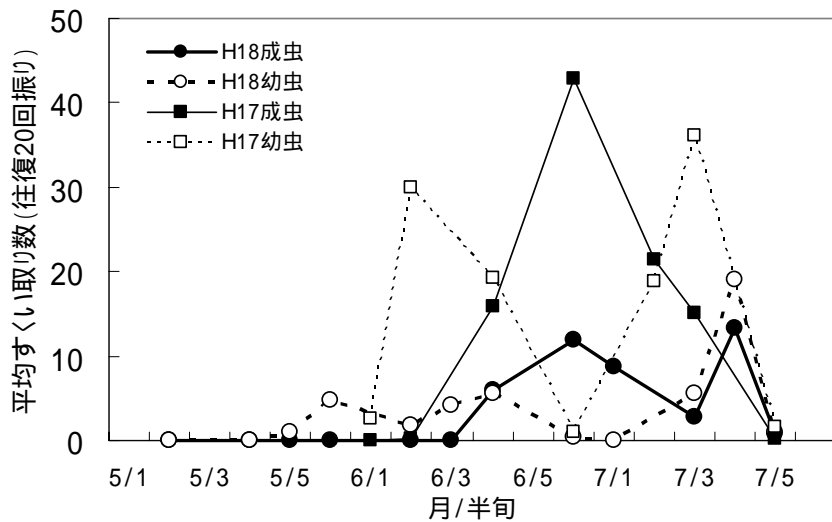


図3. 5-7月におけるアスジカスミカメの発生消長(H17、18年)

調査地：奥州市江刺区稲瀬。17-21圃場について、月3-4回調査

イネ科雑草出穂程度が高い畦畔が少なかったH18は、H17に比べて成虫・幼虫とも低い密度で推移した

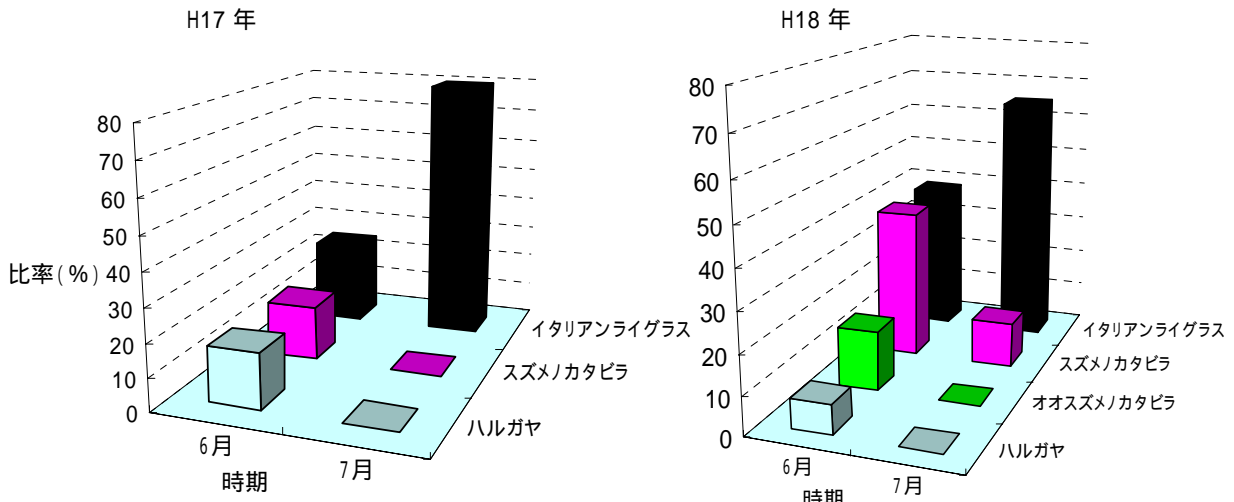


図4. アスジカスミカメ成虫が多く認められる畦畔イネ科雑草の推移

往復20回振りすくい取り調査でアスジカスミカメ成虫が6頭以上採集された畦畔で、出穂程度が「中」以上となるイネ科雑草の比率を示した(調査地 奥州市江刺区稲瀬)

6月はスズメノカタビラとイタリアンライグラス、7月はイタリアンライグラスに多く認められる